

(農)イーノなかのはま100
福井県あわら市

基本情報

- 気候：日本海側気候
 (平均気温14.5℃
 年間降水量2238mm
 降雪日数53日)
- 土質：肥沃な沖積平野
- 従事人数：組合員65戸(集落営農)、作業班8班(計90名)

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	16.4ha	1ha
主食用米(直播)	50.4ha	1ha
麦類	33.7ha	—
大豆	26.7ha	—
そば	7.0ha	—



フレコン資材の散布作業

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- 「人の輪・集落の和」を合言葉に持続する集落営農
- 水稻の直播栽培を積極的に取り入れて、育苗コストや労力を低減
- H26平均反収：水稻516kg/10a、大麦410kg/10a、大豆229kg/10a、そば26kg/10a
- 直播栽培のうち湛水直播栽培が7割、乾田V溝直播栽培が3割(播種・収穫作業を効率的に行えるように直播方法を選択)

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- 肥料
 - ①大区画ほ場のため、土壤改良材はフレコンで購入単価を下げ、効率的に散布
 - ②基肥一発肥料を直播・移植と同時施用し、軽労化
- 農薬
 - ①病虫害防除は無人ヘリで実施し省力・効率化
 - ②除草剤は大型規格の10kg袋で購入して単価を抑制
- 機械
 - ①ブロードキャスター(400L)による土壤改良材散布
 - ②早生(移植・湛直)、中生(湛直・乾直)、晩生(湛直・乾直)による、ほ場のブロック化と作業分散

導入効果

- 施肥
 肥料費 ▲約1割
 労働時間 ▲約6割
- 防除
 農薬費 ▲約1割
 労働時間 ▲約5割

(肥料費・農薬費：経営体における取組前との比較)
 (労働時間：農業経営統計調査との比較)

支援体制

- 県の農林事務所やJAから、直播によるコスト低減の技術指導
- JAによる大口奨励(肥料・農薬代の利用割戻 3.5%)
- 土地改良区による大区画化の推進(補助事業)
 (毎年、畦畔を取り去ってほ場を拡大)

課題・今後の目標

- 施肥や防除のコストをさらに抑える方策が課題
- 乾田V溝直播栽培による収量向上と、面積の1割程度の増加を目指す